

## 汽水域研究会 NEWS LETTER

## 例会開催報告

## 汽水域研究会第12回大会(第9回例会)

汽水域研究会の第12回大会(第9回例会)と、島根大学 研究・学術情報機構 エスチュアリー研究センターの第28回汽水域研究発表会との合同研究発表会が、2021年1月9日(土)から10日(日)の2日間にわたって開催されました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、研究会として初めてオンラインでの開催となりました。

参加者は延べ207名(1日目:111名、2日目:96名)にいたりしました。研究発表は、常設セッションである「汽水域一般」で1題、「流動解析」で4題、「水圏生態研究」で13題、環境変動は「環境変動解析」で5題、スペシャルセッションである「完新世における汽水域およびその周辺環境改変」で7題、特別講演3題の計33題でした。その中で、特別講演として話題提供いただいた香港大学の安原博士と、米国アリゾナ大学のデットマン博士には、オンライン大会の利点を活かし、それぞれ自国からリアルタイムにてリモート講演いただきました。

初のオンライン開催ということで発表時の切り替えや質疑応答に関する混乱が予想されましたが、心配していたような事態は起こらずに、予定通り進行することができました。質疑応答は口頭による質問とチャットの2つを並行して行われましたが、チャットによる質問は、質疑応答時間終了後にも個別にやり取りが可能な為、より議論を深めることが可能になったと感じました。

研究発表会終了時には、汽水域研究会会長である三瓶教授が閉会の挨拶を述べられ、機関紙LAGUNAの近況や初のオンライン開催の運営や参加への謝辞を述べられました。

参加者の方、運営の方々、ご参加ありがとうございました。これからも汽水域研究会と島根大学エスチュアリー研究センターをよろしくお願いいたします。



安原博士の発表のようす (Zoom画像をキャプチャー)

(汽水域研究会情報幹事 山田和芳)

(写真:エスチュアリー研究センター 金相暉)

## 汽水域研究会第12回大会(第9回例会)会長賞

汽水域研究会では、優秀な若手人材の育成と学生の研究意欲向上を目的として、「汽水域研究会会長賞」と「エスチュアリー研究センター長賞」を優秀な発表を行った学生に授与しています。これは参加者の投票により決定されます。第12回大会(第9回例会)においてはオンライン投票として、後日集計しました。

今回、「汽水域研究会会長賞」を受賞したのは、島根大学自然科学研究科の石山侑樹さん、早稲田大学大学院創造理工学研究科の張含也さんの2名、「エスチュアリー研究センター長賞」を受賞したのは東京農業大学大学院生物産業学研究科の松田烈至さん、島根大学大学院自然科学研究科の佐々木聡史さんの2名でした。

受賞されたみなさま、おめでとうございます！

### 【受賞内容】

#### 汽水域研究会会長賞

石山侑樹さん 島根大学大学院 自然科学研究科

「斐伊川水系汽水域におけるヨシエビの生活史(石山侑樹・山口啓子・勢村 均・中村幹雄・松本洋典・三代祐司)」  
得点: 20.9点

張含也さん 早稲田大学大学院 創造理工学研究科

「宍道湖・中海表層堆積物に含まれる重金属の空間分布と起源  
(張含也・廣瀬孝太郎・青木 南・香村一夫・瀬戸浩二)」

得点: 20.3点

#### エスチュアリー研究センター長賞

松田烈至さん 東京農業大学大学院 生物産業学研究科

「汽水性二枚貝ヤマトシジミに対する流域由来物質の影響(松田烈至・園田 武)」  
得点: 20.4点

佐々木聡史さん 島根大学大学院 自然科学研究科

「東南極舟底池における古環境変化(予察)(佐々木聡史・瀬戸浩二)」  
得点: 20.3点

学生賞対象発表者の平均点は18.90/25点満点でした。

(汽水域研究会情報幹事 山田和芳)



## 情報

### ● 今後開催予定の関連学会

新型コロナウイルス感染症拡大のため、多くの学会大会・研究会が**オンライン形式**、**ハイブリッド形式(現地+オンライン)**での開催となっています。詳しくは、各学会等HPを参照ください。

日本地球惑星科学連合2022年大会

日程: 2022年5月22日~6月2日 **ハイブリッド形式**

場所: 幕張メッセ(千葉県)+オンライン

日本生態学会(第69回大会)

日程: 2022年3月14日~3月19日 **ハイブリッド形式**

場所: 福岡国際会議場+オンライン

## おすすめ書籍



島山重篤(2020) 牡蠣養殖100年 汽水の匂いに包まれて. マガジンランド, 464ページ, 3,050円, ISBN 978-4865462609

教科書にも登場するようになった「森は海の恋人」運動の火付け役となった島山氏が20年間にわたって「漁協の共済」に連載した内容が一冊の本になりました。

あたためて汽水域を中心にしてつながる森と海、自然環境と人間の暮らし。そして、東日本大震災という未曾有の惨劇と自然再生について深く考えさせられます。牡蠣だけでなく、ムール貝、ホタテ、アサリ、シジミなど汽水に関連する身近な食用貝が登場して、その歴史を知ることができます。

## 第13回大会について

### 重要なお知らせ1 汽水域研究会 2021年(第13回)オンライン大会について

汽水域研究会第13回大会は、2021(令和3)年12月18日(土)に開催いたします。新型コロナの状況は、現在比較的落ち着いておりますが、まだ人々が集まる状況ではありません。そこで本大会では、オンラインで繋がり、ささやかな研究発表会を行った後、総会を開催することとしました。研究発表会は、新春に合同発表会もありますので、それに備えることも兼ねて、学生中心に行ないたいと思います。会員のみなさまの周囲に発表できる学生がおりましたら、推奨いただきますようお願いいたします。また、新春の合同発表会が間近だけど、ここで発表しておきたい、または、残念ながら新春の合同発表会に参加できないので、ここで発表しておきたい、という方のために、一般発表のセッションも設けました。本大会に奮ってのご参加お待ちしております。

【方 式】 zoomを用いた完全オンライン形式

【日 時】 2021年12月18日(土) 9:00~14:00学生発表 14:00~16:00一般発表 16:00~17:00総会

【参加費】 無 料 参加者にはオンライン大会用zoomミーティングID, パスコードを事前連絡予定  
講演要旨集は電子媒体(PDF形式)を配布予定

【各種締め切り】 2021年12月3日(金) 発表者の参加申込および要旨提出  
2021年12月15日(水) 発表者以外の大会参加申込

【詳細・問い合わせ】 申込方法の詳細については、汽水域研究会HP、メーリングリストの案内を参照

(汽水域研究会事務局長 瀬戸浩二)

## 汽水域合同研究発表会2022について

### 重要なお知らせ2 汽水域合同研究発表会2022(ハイブリッド開催)について

汽水域研究会では今年度も引き続き、島根大学エスチュアリー研究センターと共催して、汽水域合同研究発表会2022(島根大学エスチュアリー研究センター(EsReC)第29回汽水域研究発表会、汽水域研究会第10回例会)を開催いたします。今回は、社会情勢を鑑みて、会場とオンラインを併用するハイブリッド形式にて開催します。

会員の皆様には、この機会に是非ともご研究の成果を発表していただきたいと思っております。また多くの方々にお声をかけていただき、お誘い合わせの上ご参加いただきますようお願い申し上げます。

【方 式】 ハイブリッド形式(島根大学+オンライン)

【日 時】 2022年1月8日(土)~9日(日)

【会 場】 島根大学 総合理工学部1号館21番教室(原則県内参加者)  
オンライン(県外参加者など)

【参加費】 無 料 【PDF要旨集代】 無 料

【各種締め切り】 2021年12月13日(月):講演者の参加申込, 聴講の早期申込  
2022年1月4日(水):オンライン聴講の一般申込

【詳細・問い合わせ】 詳細については、島根大学エスチュアリー研究センターHP、汽水域研究会HPを参照してください

(汽水域研究会事務局長 瀬戸浩二)

追悼

## 古津年章先生のご逝去を悼む

島根大学名誉教授で当研究会会員の古津年章先生が2020年9月26日ご逝去されました。享年68歳でした。

島根大学をご退職後、広く環境問題に取り組みながら、後進の研究者へのアドバイスも続けられておりまだまだこれから研究面での活躍も期待されていたところ、大変残念です。

島根大学着任後同じグループで仕事をしていた者として「小さな巨人」古津先生の思い出を少し語らせて下さい。

古津先生は、1977年4月～1999年3月、郵政省通信総合研究所在職中に、NASA、宇宙開発事業団へ出向され、世界初の衛星搭載降雨レーダーである熱帯降雨観測衛星(TRMM)搭載降雨レーダーの開発に携わってこられました。衛星搭載降雨レーダーによる降雨リモートセンシング分野において、ハードウェアのみならず、ソフトウェアの両面で、第一人者として、全世界から高く評価されています。衛星搭載機器開発の前には航空機搭載降雨レーダー観測実験に従事され、自ら航空機に乗り込んで、観測データを取得し、データ解析を行いつつ、機器開発を続けて来られました。

1999年4月、島根大学に教授として着任後も、衛星搭載次世代型降雨レーダーに関する研究が続けられると共に、広島大学作野博士と、汽水域のリモートセンシングに関する研究も開始されました。マイクロ波と光学観測を組み合わせた観測的研究が目標で、分光放射計、水質計、風速計などを手に、学生と共に現場で観測を行い、共にデータ解析、検討を行ってきました。理論のみならず、自分でデータ取得から全てを行う、先生のスタイルはいつも同じでした。リモートセンシングによるクロロフィルa、濁度、濁りの原因推定、、、一緒に取り組みたい課題がまだまだたくさんありました。

学内では「小さな巨人」とも呼ばれていました。小柄な先生は、脚立を使って背の届かない黒板の上の方まで、広く使って授業をされていました。留学生を自宅に招待して面倒を見ていた先生は、留学生から、親しみを込めて「松江の父」と呼ばれていました。

学科長の時には、個性豊かな教員同士、教育に関する議論も激化する中、穏やかな声で議事をうまく進めている姿も印象に残っています。学内環境の改善を目標として、「エコロジカルキャンパスプロジェクト」を立ち上げ、多くの教職員を仲間に、のちのEMS認証取得へと大きな役割を果たしました。小柄な先生が大学に果たした役割は非常に大きかったと思います。

研究、教育の面で大変ご活躍された古津先生、「小さな巨人」に合掌。

(島根大学 学術研究院 理工学系 下舞豊志)



古津年章先生(近影)  
御遺族提供

## 会員数(2021年11月1日)

正会員: 81名(-1)、賛助会員: 5名(±0)、  
学生会員: 41名(±0)、計: 127名  
#2020年8月15日からの増減

## 編集後記

第22号の発行が遅くなり大変申し訳ございませんでした。昨年から続く長いコロナ禍において、研究会としても活動を維持する方法を模索しつづけております。引き続きよろしく申し上げます(山)

汽水域研究会ニュースレター第22号 2021年11月1日発行 編集・発行: 汽水域研究会  
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 島根大学エスチュアリー研究センター内 汽水域研究会事務局  
office.rgbwa@gmail.com 0852-32-6450 (phone&fax)